

地震発生後6日の現状(28日)

27日の午前中に長岡市での震度5強の地震のためか、昨夜の避難所は26日の夜とは、打って変わって満員盛況の状態であった。私も、26日朝、避難所に退出届けをだしたものの、急遽再度の手続きを行った。

そのため、引き続き会社へも避難所からの出勤となった。28日の0時～7時までには震度3の地震を含め、4回程度?の地震があった。そのたびに、避難所はざわめいていた。

食料等は、発生時に比べ十分に被災者にも行き届くようになった。被災当時は、朝、晩の食事のみで食パン一切れかおにぎりのどちらかであった。

今(正午過ぎ)も、微震があった。

被災者のストレスも我が家に帰ることが出来ないため、たまってきた。また、この何度にも亘る地震のため、この地震がトラウマとなって、常に地面が動いているような感覚に襲われているとともに、小さな物音にも地震ではないかと恐れている。

余震の恐怖から、仕事が全く手に付かなく、仕事らしい仕事となっていない。同僚も、服を着込みあるいは避難具を手元において、いつでも逃げ出せる準備をしておき、このメールも半信半疑で打っている状態である。

<長岡市六日町地区>

下の写真は、28日午前中の長岡市六日町の被災状況である。この集落は、被害が甚大であった小千谷市の隣接に位置し、親子三人が土砂崩れに遭遇した妙見地区の被災箇所近接する。また、長岡駅とこの地区を結んだ中間(長岡駅より5km)に脱線した新幹線が今もなお、その姿を留めている。

また、今現在、水道、電気は復旧してなく、暗い不安な夜を過ごしている。

○倒壊家屋

この地区には120数件の家が建っていたが、今回の地震で外見の見た目には大丈夫でも24軒が建替えの対象となったとの事である。



自動車も潰れているのが見える。幸い人命には至っていない。



奥に倒壊しているのが見える





奥に倒壊しているのが見える

○道路の陥没

道路の陥没状況は至るところで見られる。埋設管あるいはマンホール付近で砂の吸出しあるいは流出のためか、このような箇所が多く見られた。

一方、大動脈である長岡バイパス(幅員約20m?)では、橋梁あるいはボックス等の構造物は支持されが沈下しないため、道路との落差が20~30cmの落差が至る箇所が発生している。また、道路全般が沈下しているとみられ、その沈下も一様ではなく、不当沈下のため、道路がねじれたりサーフィン道路のような波乗り道路の様子を呈しており、建設業者が不眠不休で段差解消や一時対応、また被害のひどいところでは何百メートルに亘り片側通行で全面復旧を行っているが、追いついていない現状である。



○マンホールの突出

マンホールの突出も数多く見られた。これも、地盤が沈下して突出したのか、地震の揺りだしに砂により競り上がったのかは、箇所によって異なるものと思われる。



○波打つ電線及び傾いた電柱

電線も波打って倒れており、復旧も容易ではないものと思われる。現時点でも信号が付いていない



拡大すると地名が解る。





○避難所

私がお世話になっている「防災地区センター」となっている坂の上小学校。

今日も、直接ここから出勤。

長岡市坂の上小学校



避難所で無邪気に遊ぶ子供達。せめてもの救いは子供達の笑顔。

11時頃の状況。お父さん、おかあさんは出勤し、残っているのは年寄りと子供。

ここでの、避難住民約 1,000 人。